

会議の名称	第35期第4回社会教育委員会議
開催日時	平成30年9月10日（月） 15時00分から 15時52分まで
開催場所	輝きプラザきらら 3階 教育委員会室
出席者	松浦清議長、石塚美穂副議長、大田住吉委員、川添賢史委員、栗山貴志委員、西田スマコ委員、能瀬喜代美委員、服部寛治委員、渊上万貴委員 [事務局] 社会教育部／浄内部長、片岡次長 社会教育課／新内次長兼課長、木村課長代理、西本主任 放課後子ども課／前村課長 文化財課／鈴江課長 スポーツ振興課／五島課長 中央図書館／辻本次長兼中央図書館長、中道副館長、川端課長代理
欠席者	遠藤和佳子委員、原田隆史委員、森常人委員、横山亜津子委員
案件名	1. 「枚方市立図書館第3次グランドビジョン」平成29年度進捗状況について 2. その他
提出された資料等の名称	・次第 ・資料1－1. 「図書館サービスに関する窓口アンケート」の集計結果について ・資料1－2. 「図書館サービスに関するスマホアンケート」の集計結果について ・資料1－3. 枚方市立図書館第3次グランドビジョン「重点施策」進捗状況表 ・資料1－4. 平成29年度 職員研修受講一覧 ・資料1－5. 平成29年度 図書館主要行事一覧
決定事項	
会議の公開、非公開の別及び非公開の理由	公開

会議録等の公表、非公表の別及び非公表の理由	公表
傍聴者の数	2人
所管部署 (事務局)	社会教育部社会教育課

2

審 議 内 容

松浦議長 定刻となりましたので、ただいまから第4回社会教育委員会議を開催いたします。
委員の皆様には、公私ご多用のところご出席いただきありがとうございます。では早速ですが、事務局より本日の委員の出席状況の報告をお願いします。

事務局 本日の委員の出席状況でございますが、委員13人中9人の方が出席しておられます。枚方市社会教育委員会議運営要綱第5条により、過半数の出席がございますので、会議が成立していることをご報告いたします。

松浦議長 ありがとうございます。枚方市審議会等の会議の公開等に関する規定第3条に基づき、本会議は公開となっております。本日、傍聴の方がおられますので、ご報告させていただきます。なお、平成30年4月に枚方市審議会等の会議の公開等に関する規程の改正が行われ、審議会の運営について配付資料は傍聴者の閲覧に供するか、または配付するよう努めることになりました。ただし、会議資料に非公開情報が含まれる場合には配付はいたしません。本日の資料には非公開情報を含まないと考えています。傍聴者に配付する取り扱いでよろしいですか。

(「異議なし」の声あり)

松浦議長 ありがとうございます。それでは事務局から傍聴者に資料の配付をお願いします。
事務局から委員の皆様へ報告したいことがあると伺っておりますので、お願いいたします。

事務局 ここで事務局職員の異動につきましてご報告させていただきます。
社会教育課長でございました奥野美佳が、本年8月末に一身上の都合により退職をいたしました。9月1日から社会教育部次長の新内が社会教育課長を兼務することになりましたので、ご報告をさせていただきます。
それでは、本人より一言ご挨拶を申し上げます。

事務局 9月1日付で社会教育課長になりました新内と申します。よろしくご報告いたします。前課長が退職するというところで、社会教育部

次長との兼務辞令を拝命いたしました。不慣れな点多々ございませぬけれども、お力添えいただきますようよろしくお願いいたします。

松浦議長

ありがとうございます。今後ともよろしくお願いいたします。
それでは、第 35 期社会教育委員会議第 4 回会議の案件に入りますまいりますが、最初に事務局から資料の確認をお願いしたいと思います。

事務局

お手元の資料の確認をさせていただきます。次第に続きまして資料 1-1、「図書館サービスに関する窓口アンケート」の集計結果について、資料 1-2、「図書館サービスに関するスマホアンケート」の集計結果について、1-3、枚方市立図書館第 3 次グランドビジョン「重点施策」進捗状況表、資料 1-4、平成 29 年度職員研修受講一覧、資料 1-5、平成 29 年度図書館主要行事一覧でございます。その他、全国社会教育委員連合から会報の配付依頼がございましたので、机に置かせていただいております。資料の確認は以上でございます。過不足はございませんでしょうか。
では、よろしくお願いいたします。

松浦議長

では、次第に沿って進めてまいります。案件 1、「枚方市立図書館第 3 次グランドビジョン」平成 29 年度進捗状況について、事務局から説明をお願いします。

事務局

案件 1、「枚方市立図書館第 3 次グランドビジョン」平成 29 年度進捗状況について、ご説明をいたします。
枚方市立図書館第 3 次グランドビジョンは、平成 28 年度から 32 年度までの 5 年間の枚方市立図書館の運営計画として、平成 28 年 3 月に策定したものでございます。
毎年度、その進捗状況と自己評価について社会教育委員会議で報告し、意見を伺うこととなっており、その結果につきましては公開することとしております。
その評価については、重点施策のみご報告をいたします。また、評価に当たっては貸出冊数など定量的な評価だけでなく、利用者満足度といった定性的な評価、さらに図書館未利用者のニーズの把握と図書館サービスの認知度を把握するためのアンケート調査の結果も取り入れて評価を行っております。
それでは、資料 1-1 の「『図書館サービスに関する窓口アンケート』の集計結果について」をご覧ください。本調査は、平成 30 年 6 月 10 日から 30 日にかけて、各図書館の利用者を対象に、全

図書館・分室 18 カ所の窓口アンケート用紙と回収箱を設置して実施し、617 枚のアンケートを回収して集計したものでございます。

それでは、2 ページ、アンケート結果をご覧ください。質問 1 では、約 65%の方がおおむね利用者ニーズを反映した蔵書構成になっていると回答されています。

次に、3 ページ下段の質問 4 は、レファレンスサービス、いわゆる職員への問い合わせ相談や読書相談などのサービスの認知度をお聞きしたのですが、サービスを知っている回答者が約半数、そのうちサービスを利用しているのは 16.2%との結果でした。

次に、5 ページ上段の質問 7 の滞在型図書館に関しては、65%の回答者が「満足」、または「概ね満足」しています。

その下の質問 8、自学自習に関しては、回答者の約 3 割が「満足」、または「概ね満足」という回答でした。なお、市立図書館では滞在型図書館を目指すとともに自学自習環境の充実を図るため、平成 30 年 4 月から中央図書館 3 階に自学・自習コーナー、さだ図書館・牧野図書館の市民室サービスコーナー跡に、ラーニングルームとして受験勉強も可能としたスペースの運用を開始しました。

次に、7 ページの質問 12 は、その認知度についてお聞きしました。運用を開始して 2 カ月ということで、認知度は約 4 割と調査時点では高いとは言えませんが、中央図書館では 4 月に 102 件、5 月、6 月はそれぞれ 306 件、7 月につきましては 621 件と大幅に増加をしており、さだ・牧野でも同様に増加をしております。

続きまして、資料 1 - 2 の「『図書館サービスに関するスマホアンケート』の集計結果について」をご覧ください。

本調査は平成 29 年 7 月 1 日から 19 日にかけて、図書館利用者と未利用者を対象に、広聴相談課によるスマホアンケートを利用してアンケートを実施し、97 人からの回答をいただき、集計したものでございます。

それでは、2 ページ、アンケート結果をごらんください。

質問 1 では、回答者の約 8 割の方が市立図書館を利用していたっていました。

質問 2 は、市立図書館未利用者が対象で、市立図書館を利用しない理由として一番多かったのは「自宅や職場、学校から遠い」40.9%、次いで「図書館を利用する時間がない」「借りた本を返すのが面倒」「交通アクセスが不便」「本をあまり読まない」を理由に挙げています。

質問 3 も、未利用者を対象にした質問で、どの分野の資料の充実を求めているかをお聞きしたものです。40.9%の人が、「話題の本

やベストセラー本」の充実を求めており、次いで31.8%の人が「専門書」や「雑誌」の充実を求めています。また、18.2%の人が「日常生活で役立つ情報が書かれた実用書」「枚方市の郷土資料、行政資料」「絶版となった本など古い本」といった、図書館でなければ利用することができない本の充実を求めています。なお、電子書籍の提供を求める人は、4.5%と少数でした。

5 ページですけれども、質問4は、「専門知識のある職員による読書の相談、調べもの相談」や「ビジネス支援サービス」「医療情報サービス」などの課題解決型のサービスや、「自学自習スペースの充実」「乳幼児と保護者や児童、青少年に対するサービス」を求めていることがわかりました。

6 ページ、質問5では、40.9%の人が「開館時間を延長しても利用しない」と回答されました。

7 ページ、質問6は、市立図書館利用者を対象にした質問で、利用頻度は「年に2～3回程度」「月に1回程度」「年に1回程度」が上位という結果でした。

9 ページ、質問8では、64.9%が図書館でのレファレンスサービスを知らないとの回答でした。

10 ページ、質問10では、市立図書館に対する自由なご意見を伺いました。遅くまで開館していて、土日でも利用できるという利便性や指定管理館での快適さや職員対応について評価をいただく一方、枚方市駅前に図書館を望む意見や古い本の更新、自習室の設置、図書館ホームページの改善を望む意見をいただきました。

それではここで、資料1-3、横長の、「枚方市立図書館第3次グランドビジョン『重点施策』進捗状況表」をご覧ください。こちらは、平成29年度の進捗状況をまとめた表でございます。左側の「取り組みの方向」から、中ほどの「評価指標」までが、第3次グランドビジョンに既に記載されている事項でございまして、その右側の年度ごとの「目標とする到達点」の進捗状況と、「平成29年度の進捗状況」欄に記載した中身でございます。

それでは、順にご説明をいたします。

1 ページ、運営方針1、「基礎的な図書館サービスを充実します」の上段、b「資料・情報提供機能の充実」の具体的な取り組み「レファレンスサービスの周知と利用促進」につきましては、レファレンス体験イベントの開催やサービスのPRなど、さまざまな形で周知を行っておりますが、アンケート結果では、48%の方に知られていない結果でした。

次に、その下のdの「図書館という空間の魅力向上」の施策「滞在型図書館への移行」につきましては、平成30年3月に中央図書館に自学・自習コーナーを、さだ図書館・牧野図書館では、ラーニ

ングループを試行設置し、4月1日から本格実施しました。これにより、中央図書館では27席、さだ図書館では24席、牧野図書館では27席の座席数を拡大いたしました。

2ページに移りまして、運営方針2、「家庭生活及び職業上の課題や地域課題の解決のための各種支援機能を強化します」の取り組みの方向性のa「課題解決支援」のうち、上段の「情報活用能力の育成」につきましては、レファレンス体験やビブリオバトル等のイベントを実施するなどの取り組みを進めております。「社会状況を踏まえたレファレンス・レフェラルサービスの充実」につきましては、子育て・医療・健康づくり関連の取り組みとして、利用者の医療に関するレファレンスキーワードを中心に購入資料選定を行うとともに、中央図書館開館時に購入いたしました医療関係資料の更新を行いました。また、アンケートでは、職員の資料・情報提供に対する姿勢に関する満足度も高く、おおむね順調に進捗しています。

3ページに移りまして、運営方針3、「教育的役割を重視した取り組みを推進します」につきましては、「子ども読書活動の推進」を重点施策に据えており、児童書の買いかえ、おすすめ本リストの配付、各種イベントの開催、読み聞かせボランティア養成講座の開催など、積極的に取り組みを進めております。

4ページに移りまして、施策の「学齢期の読書習慣を育てる（学校図書館支援）」のところですが、昨年度も10中学校区への学校司書の配置を継続し、学校図書館蔵書のデータ化とオンライン化後、平成29年4月、全64小中学校で稼働した学校図書館システムの管理及び技術的支援や読書支援用図書購入と団体貸し出しを実施しました。

配置された学校司書は生徒や司書教諭の支援などを実施し、学校図書館支援を進めております。なお、平成30年4月からは全19中学校区へ学校司書の配置を行っております。

次に、6ページをご覧ください。運営方針4、「魅力的かつ効果的・効率的な運営体制を構築します」のa「各図書館施設の役割分担と連携」の中央図書館が「全館の司令塔機能を果たす」ことにつきましては、各サービス種別単位の全館のマネジメント体制が確立し、児童サービス、障害者サービス、学校図書館支援において、中央図書館がそれぞれの司令塔機能を果たすとともに、窓口アンケートやスマホアンケートを実施し、市民のニーズの把握に努めております。

7ページに移っていただきまして、取り組みの方向の下段、bの「効果的・効率的な図書館運営」の施策「生涯学習施設と図書館の複合施設への指定管理者制度導入」のうち、「生涯学習施設との一

体的な運営」につきましては、先行導入したさだ・牧野を含む生涯学習市民センター・図書館の6複合施設への制度の導入に向けた手続と事業者の選定を行い、平成30年4月には複合6施設へ指定管理者制度の導入を行いました。

また、指定管理者が運営するさだ・牧野図書館では、さまざまなイベントが実施され、生涯学習市民センターとのコラボ事業が実施されるなど、生涯学習市民センターと図書館の一体的な運営が進められています。

続いて、「制度導入により生み出した資源によるサービス向上」につきましては、開館時間数が従来の約1.5倍とし、直営館の利用が減少傾向にある中で、さだ・牧野については延べ利用者数・貸出冊数とも増加いたしました。

さらに、資料の充実につきましては、学校等への団体貸し出し図書等の充実を図るため、「子どもに本を届ける基金」から350万円を予算化し、2,445冊の児童書を購入し、小学校45校に1校50冊として2学期・3学期に団体貸し出しで届けました。

8ページに移っていただきまして、dの「職員の知識・技術・能力の育成・継承」につきましては、市立図書館における人材育成のため、核となる専門的スタッフの育成として、外部で実施された各種専門研修の受講や国会デジタルコレクションの操作研修などの課題解決型図書館を目指すための人材育成や、児童書の書評作成、読み聞かせ講座など、館内で企画した各種研修を実施するとともに、ジョブローテーションによる職員のスキルアップを図っております。

資料1-4をご覧ください。こちらは平成29年度の職員研修の一覧でございます。

それでは最後に、資料1-5の「平成29年度図書館主要行事実施一覧」をご覧ください。ただいま進捗状況表におきまして、幾つかの図書館で実施したイベント等についてご報告をさせていただきましたが、これがその詳しい内容でございますので、参考までに配付をさせていただきました。

以上、今まで説明をいたしました内容を踏まえまして、第3次グランドビジョンの平成29年度の進捗状況につきましては、おおむね良好に進行していると自己評価をいたしました。

長くなりましたが、枚方市立図書館第3次グランドビジョンの進捗状況に関する報告は以上でございます。

松浦議長

ありがとうございます。資料の1-1と1-2ですが、窓口アンケート、それからスマホアンケートの集計結果について、さらに第3次グランドビジョンの重点施策進捗状況表という横長の長いデ

一タ、それから職員の研修一覧、図書館主要行事一覧、資料5つを用いまして、ポイントのみ指摘していただきました。資料の分量が多いものですから、先に委員の皆さんには事前に目を通していただいた内容を、ここではポイントだけ確認するという形のご説明だったかと思います。内容が多岐にわたっており、アンケートなども一つ一つの項目を読み上げたわけではありませんので、結果だけ大まかに、重点だけ見ていただきましたので、もしかしたら少しわかりにくい、あるいはもう少し詳しくお尋ねしたいという、そういう点もあろうかと思います。どうしましょうか、順番に、あるいは一つ一つといっても、なかなか考えをまとめるのも大変かもしれませんが、今疑問に思った点、もう少し詳しく聞いてみたいという点、いずれでも構いません。何かご不明な点など、意見などあれば、お聞きしたいと思います。意見のある方は、忌憚なくおっしゃってください。よろしいですか、どうぞ。

服部委員 読ませてもらって感じたことなのですが、1-1の、満足度調査の中で、コメントのところで、例えば2ページの2の「約6割が満足している」、また、3ページの3の「5割が満足している」というような、このあたりの数字、満足しているという表現はすっと読めたのですが、例えば、質問2で、27.1%ですか、これが「満足している回答者が多い」というような表現とか、それから4ページの質問5のところで、「4割が満足している」。何か、これぐらいの数字で満足しているというのを強調されているようなところに少し違和感を感じました。6割、7割、8割でしたら満足しているという表現でいいのですが、5割を切ると満足しているという表現を前面に出していいのかなという感じはしました。これは感想ですが。

松浦議長 今のご意見はいかがでしょうか。

事務局 ありがとうございます。ただいまのご意見も踏まえまして、文言の整理等について、検討させていただきます。

松浦議長 よろしいですか。どうぞ。

大田委員 今、服部委員の意見についてですが、ほんとうは統計ですからきちっと分析をすればいいのかもしれませんが、私の印象では、事務局のご説明どおりおおむね良好という扱いでよいのではと思います。やはり、図書館の現場の皆さんが、そういういろいろと討議されたことを踏まえて、日々実践されてらっしゃるご尽力のたまものなんだ

ろうなという気はします。

いわゆる定量分析で数字が出ているものがありますよね。利用館数とか、あるいは所蔵冊数だとか、レファレンスの件数だとかというのは、本当は人口1人当たり割って、ほかの市町村と比較をするというのが一番ベストだと思います。私は民間出身ですから、いつもライバル企業と比べてどうかというのはやっぱり一番気になるのですが、例えば大阪府内の市町村規模の比較的似たような市町村がもしあれば、そういったところと比較してみるのもよいのではないのでしょうか。もし比較した結果がよければそういうことをどんどん市民の方に、ぜひPRされてもいいんじゃないかなという気はします。

あと、定性的なところは、先ほどレファレンスサービスの充実や、あるいは開館時間が延びて非常によかったとか、やはり市民が困っていることに対してどうやって課題解決をしているかという、そういう事例が現場にはたくさん、図書館司書の方とかお持ちだと思うんです。ぜひ、事例集、何度もこの会議で言っていますが、司書の方の、つぶやきみたいなものを、例えばこういう相談があって、これに対してこういうふうな受け答えをやって、とても窓口で喜ばれたなど、そういう良好事例集みたいなのをぜひ出して、市民の方に広く情宣をして、楽しいイメージを演出してほしいなという気はします。

以上です。

事務局 ありがとうございます。

松浦議長 ありがとうございます。そのほか、何か。どうぞ。

川添委員 質問なんですけれども、2種類のアンケートをとられていて、1つ目は窓口アンケートということで、いわゆるカウンターに物理的にアンケート用紙というのを置かれて、617枚のアンケート回収をされていると思うんですが、もう1つのほうのスマホアンケートなんですけど、これはどういう方に、どういうアクセス方法でスマホを使ってアンケートをとられたのかというのを教えていただきたいです。

事務局 こちらのスマホアンケートにつきましては、広聴相談課が毎月いろんなテーマで実施しているスマホアンケートという仕組みを利用しまして、この図書館のアンケート実施をさせていただきました。回答された方につきましては、一定広聴相談課で登録を、スマホアンケートで年間回答していくという登録をされている方に加

えて、全く一般の方で、スマホアンケートをたまたま見られた方が回答するというような方も含まれての回答数になっております。

川添委員 わかりました。例えば属性的に、相談に来られた方にお伝えしているんだったら、比較的高齢者かなという印象があるのですが、そのあたりの偏りというのは、そんなにないものなんでしょうか。

事務局 そうですね、特に何か、特に偏りというのは。こちらから何か働きかけてというようなことではないです。

川添委員 わかりました。何となく、スマホアンケートというと、どこかに入り口がないと多分スマホって見に行かないと思うので、手元にアンケート用紙があったのならともかく、非常に意識の高い方なのか、あるいは何か非常に関心のある方だけが、一般市民全体からして非常に偏りがある可能性もあるのかなと思ったので、ちょっとお聞きしました。

服部委員 回答者という、スマホのところなんですけども、有効回答数97人、私自身はスマホを使わないのでよくわからないんですけども、どれぐらいの人に送るのですか。

事務局 送るのではなくて、枚方市のホームページの中に、スマホアンケートというサイトがありまして、そこで回答するという形になっております。

服部委員 そうしたら、どれぐらいの人が見ているかというのはわからないわけですか。

事務局 見て、それに回答です。年間で登録されている方も回答していただきますし、それプラスそれを見て、回答しようというふうに思っただけで回答していただいている方もいらっしゃると思います。

大田委員 年間登録してらっしゃる方って、それは大体ざっくり何人くらいいらっしゃるんですか？

事務局 すいません、ちょっと今、数値はわかりません。

大田委員 数千ぐらいですか。1万よりも多い？

事務局 ちょっと、また、お調べしてお答えします。

大田委員 よくあるのが、メルマガとか、そういうのもよくやられるじゃないですか。メルアドをやっぱり登録しないと当然メッセージは行かないわけですから、スマホの場合はやっぱりヒット率少ないですよ。97も来たんなら、まあまあまだいいほう。本当は400か500くらいは欲しいですね。だから、母数に対してのヒット率がどれくらいかというのは、やっぱり常に把握をされておいたほうがいいと思いますし、メルアドはもちろん個人情報ですけど、有効に使うべきときには、お使いになられればいいんじゃないかなと思います。

事務局 ありがとうございます。

松浦議長 そのほか、ありませんか。アンケートの資料1-2ですね、窓口アンケートとスマホアンケートについてのご意見が多いようですけれども、とりあえず絞ったほうがいいんでしょうか。このアンケートということに関しては、ほかに何かご意見はございませんでしょうか。

淵上委員 このスマホのほうで、利用していない人に対象を置いてというのが、どういうふうな理由でというのが見れてよかったかなと思うんですけども、こっちの窓口アンケートのほうで、レファレンスサービスを知っているけど利用していないという人が33.1%ということで多いんですけど、その方はなぜ利用しないのかとか、そこら辺をもうちょっと何か、掘り下げていってもらえれば、どういうふうにしたら利用してもらえるのかとか、話しかけにくいとかいろいろあるかもしれないんですけど、そっちのほうのアンケートというのも次回とか、何か掘り下げていってもいいのかなと。せっかくのサービスを行っているので、利用していただきたいというのもありますし、そういうのをちょっと感じたので。

大田委員 私は、レファレンスサービスとレフェラルサービスは、ちょっとうるさいんですが、まずこの名前自体、片仮名じゃないですか。一般の人というのは、そんなの知らないと思います。よっぽどの人でないと、そういう意味をしっかりと説明できる人というのは少ないと思います。福祉分野でデイサービスとか、ショートステイとかいうのを、「日帰り」や「短期入所」などの日本語に言いかえたじゃないですか。だから何かいいネーミング、わかりやすいネーミング、ご相談何とかとか、何か、みんなで現場の方で考えていただいて、市民にとって身近なサービスなんだよと、とてもいいサービスですから、利用度が上がるような感じで、ちょっと考えていただければ

いいかなというような感じはします。

服部委員 おっしゃるように、初め私はわからなかったです。最近聞いて、こんな感じのものだとわかるようになりましたけど、最初のころは意味がわかりませんでした。

大田委員 レファレンスとレフェラルの違いもよくわからないでしょう。

事務局 スマホアンケートの登録者数なんですけども、ただいまお聞きしましたところ 333 人ということでした。

松浦議長 何人かの委員の方々から、淵上委員、大田委員、服部委員を含めて、同じような観点から要望というか、意見というか、改善点が指摘されたと思いますので、その点は事務局で受けとめていただきまして、改善していただければと思います。
そのほか、アンケート関係で何かあれば。

川添委員 これも質問になるんですけれども、スマホアンケートの 5 ページのところに質問 4、「いいえ」と回答された方に、どのような図書館サービスを充実させていけばよいと思いますかという質問の中の回答のところなんですけど、個人的に思っていたよりも読書の相談、それから調査、ビジネス支援、医療情報という形で先ほど話題に上がっていた、まさしくレファレンスとか、あるいはサポートとかが必要な、わりと専門性の高い生活密着のところを充実させてほしいという回答が多いんですけど、例えば今されている、いわゆるレファレンスサービスが、中央図書館とか分館のほうでこういったビジネス支援とか、医療情報とか調べものに対応できるようなレファレンスサービスの中身なのかということについては、どうなんでしょう、その本を探すというところなのか、もうちょっと専門的なところまで対応できるような形になっているのかというのは、いかがなんでしょうか。

事務局 レファレンスサービスという言葉自身が周知できていないのですが、普通にお問い合わせいただいたりご相談いただくというのは、毎日多数の方からいただいております。辞書であるとか、本の中から情報をお渡しするというのも日常的に行っているところなんですけども、中央図書館でいいますと、商用データベースで、法令であるとか、いろいろ朝日新聞の古い情報であるとか、いろんなものを提供できるというような、そういうサービスも行っているところですよ。それも周知には努めているところではあるんですけれ

ども、案内し切れてないのかなと思います。まだまだ少ないのかなというところは見受けられますので、図書についてや図書検索についてのご相談も受けられるという周知には努めてかないといけないと思います。ただいま、3階にITコーナーをもうけています。インターネットの端末と、商用データベースの入っている端末は7番と8番の端末で、その7番には「聞蔵」という朝日新聞のデータベースで調べられます。7番については、利用度が高いものですから、徐々に浸透してきたと感じています。

松浦議長 よろしいですか。

川添委員 イメージではどちらかというところと公的な図書館なので、青少年育成だとか、乳幼児とか、そういったところがわりとニーズが高いのかなと思ったんですけど、意外と専門的な要望が多いんだなということは、結構びっくりしました。

事務局 ただ、よく大田先生もおっしゃるビジネス支援のところは、例えば中之島図書館であるとか、鳥取であるとか、定期的に講座も開きながらされているような支援をされているんですけども、そこまで踏み込むというところについては、なかなか人材的なものであるとか、資料的なものであるとか、いろんなハードルがありますので、そういったところも研究しながら今後の課題にしていきたいと思っています。

松浦議長 よろしいですか。アンケートに関しては、そのほか。

大田委員 ちょっと蛇足ですけど、図書館というと、本がたくさんあるところというようなイメージをもっていて、図書館もよく蔵書の冊数を競ったというのはちょっと言い過ぎかもしれませんが、そういう蔵書がたくさんあるのが大きい図書館だという風潮があったと思うんです。しかし、平成から、これから新しい時代になって、やはり蔵書数よりもアクセスしたときにそのバックに広がる、洋服屋さんでも靴屋さんでも、全商品を店頭で並べておくわけにはいきませんから、お客さんから聞かれた場合に、あなたのサイズならこういうふうなのがありますよと言って、すぐ取り寄せてくれる、そういう窓口での相談機能というか、アドバイス機能というのか、そういうところが充実しているところが、いわゆる課題解決型図書館というふうには呼ばれる時代になりつつあるんだろうなと思うんです。

 東京に日本能率協会という企業がありますけど、さっきおっし

やった聞蔵だとか、日経のビジネスデータベースだとかを契約すると年間数十万ぐらいの会費を取られるわけですよ。それを彼らはビジネスとしてやってらっしゃる。公共図書館がやるようなことを商売としてやってるわけですよ。公共図書館へ行くと、ほぼコピー代ぐらいで、大体それと同じぐらいの情報を得られる。やっぱり公共図書館の果たす役割というのは非常に大きいんだろーと思ひます。私自身もよく大学だとか、公共図書館を利用しますが、コピー代だけでいいですし、論文でも何でも取り寄せてくれますから。やっぱり世の中にどういふ情報があつて、自分で検索して、個人ではデータベースと契約して年間何万も払えないが、この図書館に来ればそれを無料で、自分で検索できる、そういうインフラ整備というか、このあたりは非常に大事なことなんだろーと思ひます。ますますこれから、そういう図書館機能というのが求められる時代になるのではと思ひますし、ぜひ今後もさらに注力していただければと思ひます。

松浦議長

よろしいでしょうか。委員の皆さんも、ほかはよろしいですか。それではアンケートについて、資料をもとに議論を進めましたけれども、資料3の、横長の大部なものですけれども、こちらについて特に何か気になった点とか、もう少し聞いてみたいというところがありましたら、ご意見をお伺ひします。

栗山委員

中学校長です。今年度から枚方全19中学校に学校司書を派遣いただき、ほんとうにありがとうございます。私、自己紹介で言いましたように、14年ぶりに中学校現場に戻ってきたのですが、14年前の中学校の図書室というのは、こんなことを言ったらいけないのでしょうかけれど、閑古鳥が鳴いていました。昼休みも誰もいない。ほとんど本がさわられていない、新品のまま、廃棄されていくような状況があったのが、今年度派遣いただいた学校司書さん、それからうちの司書教諭、それから、うちには図書委員会がありますので、子どもたち、ほんとうに一生懸命図書室の整備から、いかに本を紹介していったらいいかということをお司書さんに尋ねながら、いろいろな催しを今やってくれています。ちょっと夏暑かったというのもあるかもしれませんが、昼休みの図書室に人がいっぱいいるんですよ、みんな本を読んでいるのです。ほんとう、初めてそのような図書室を見させてもらいました。ほんとうに、今まで司書教諭でやっていかなければならぬと思ひていたのが、司書教諭は授業も持っていますので、担任もしていますので、なかなか図書教育に専念できなかったのが、学校司書さんを派遣いただいたということで、ほんとうに図書室が有効に活用できているなど。ぜひとも、私、前年

度まで小学校で校長をしておりましたので、続いて 45 小学校にも学校司書を派遣いただけたら、小学校もほんとうに喜ぶだろうなと思いますので、またよろしく願いいたします。

松浦議長 いかがでしょう。今の要望に対して。

事務局 図書館の立場としましたら、学校教育部の事業を支援する立場で事業実施させていただいています。栗山先生の提案はよいものではあります、非常に大きな費用がかかることだと思いますので、費用などバランスも考えながら、検討をしたいと思います。ありがとうございます。

松浦議長 よろしいですか。

能瀬委員 そうしましたら、小学校長として申し上げます。先ほど栗山校長のほうからもお話があったように、中学校に図書館司書が配置されたおかげで、小学校にも来てくださるようになりました。ただ、月曜日に来るとかそういう定期的なものではなく、とりあえずは図書室の整備ということで、前回もお話ししたと思うんですけども、本校はまだ十進分類法では分類できていなかったところが、夏休み前から夏休みにかけて司書の方のご助言を得ながらきれいに並びかえができて、図書館司書からオリエンテーション、教員向けと、それから児童向けと両方していただきました。これによって児童のほうから、先生、これだったらこの図書館に行っても見れますねという、児童のほうから意見を言ってきたというところで、子どもたちもとてもきれいに並んでいるので本が探しやすくなってとても活用しやすい図書室になったのではないかと考えています。図書館司書、もちろんずっと常駐してくださるのが一番なんですけれども、それ以外でも、例えばこの授業のときにこういう種類の本を、ちょっと数が欲しいとか、それからこの授業のときに、こういう内容の本が欲しいんだけども、どんな種類の、どんな本があるのかとか、そういう相談は随時していったら対応していただいたり、実際来ていただいたりしていただいて、ブックトークとかそういったことも含めてしていただけるということなので、小学校の図書館教育の中で、上手に位置づけることができたらいいなと思っています。

松浦議長 これも要望になろうかと思いますが、いかがでしょう。

能瀬委員 とてもありがたく思っています。

事務局 ありがとうございます。今おっしゃっていただいたように、中学校区として中学校配置の司書が、校区内に1校、2校、3校ある小学校のほうにも行かせていただいて、その先生や生徒さんと協力しながら並べかえなどの作業をさせていただいています。今おっしゃったように、ほんとうに学校図書館の本の並び方が、そういう公共図書館と同じような十進分類法で並べば、今度また公共図書館へ行ったときに児童・生徒自身が自分でいろいろ調べることができるというつながりが生まれます。ほんとうにそうやって自分で情報を集める能力を高めてもらえるような、そういう支援ができればという思いで進めていますので、またよろしくお願いします。

松浦議長 よろしいでしょうか。そのほか、何か資料3に関しましてありますでしょうか。おおむね良好に進捗しているという理解でよろしいでしょうか。

それでは、資料があと2つありまして、資料1-4と1-5に関して、研修に関するのですが、こちらについて何か、質問、ご意見などありますでしょうか。具体例ということで参照いただければと、そういう趣旨だと思えますけれども。

特によろしいですか。

(「はい」の声あり)

松浦議長 では、特に意見がないようでしたら案件1、「枚方市立図書館第3次グランドビジョン」平成29年度進捗状況については、事務局から説明があったとおりに確認したということでよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

松浦議長 ありがとうございます。

それでは、次に案件2、その他について、事務局から何かありますか。

事務局 案件ではございませんが、本日の会議録を後日皆様に送らせていただきますので、ご確認の上、もし修正すべき点がございましたら、事務局にお知らせいただきますようお願いいたします。

松浦議長 それでは、その他の案件はないということでよろしいですね。
以上をもちまして、本日の社会教育委員会議の議事については終了いたします。本日の議事が終了したため、傍聴を終了いたします。

す。

以上、お疲れさまでした。ありがとうございます。